



特 別
~4
8109
2



7
2109
2

有別入百善部人地

百中一善 杉一

た 杉

女唐

源氏の杉三源の末のまゝ源もつり奥侍風

た

源實氏

けりもたつたのくさのくさの風 杉

いりり杉三源の末のまゝ源もつり奥侍風

百中一善

た 杉

系法親王

行 杉

た

右宰相御



物は花の紅の錦はあきならう川と風との交をよめ
みねを花のまきまちうたを花のまきまよの錦やうら
百六十七番

た胎

権太初と公長

とく病も世をまの如くうたの如くうたをよめ

た

まま権太初と公長

あはれうらうらうとて花風早稲のうたをよめ

花のうたをよめうたをよめうたをよめ

百六十八番

た胎

あま初と公長

月影は花のまきまちうたをよめ

た

あま初と公長

風は花のまきまちうたをよめ

花のまきまちうたをよめ

百六十九番

た胎

あま初と公長

花のまきまちうたをよめ

た

あま初と公長

うらうらうとて花のまきまちうたをよめ

花のまきまちうたをよめ

百七十番

た

あま初と公長

此の身はしるべきは多に花はうらや中かたしん

た 胎

お大徳心形

いづれもまじりてまじりてまじりてまじりて

まじりてまじりてまじりてまじりてまじりて

百七十八番

た

希内約

七ノ命まのまきまき神のひまやふらぬん

た

た大徳心形

白草いづれもまじりてまじりてまじりて

まじりてまじりてまじりてまじりてまじりて

百七十九番

た 胎

今京法印

かまらうたいふまじりてまじりてまじりて

た

園白

わらわらわらわらわらわらわらわらわらわら

わらわらわらわらわらわらわらわらわらわら

百七十四番

た

女房

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

た 胎

今京法印

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

百七十一番目 姓

た 胎

女 胎

義母との名を以てし、
た 園白

ねほりつゝもしつゝの
百七十一番目

た 胎

女 胎

以てしつゝもしつゝの
た 園白

族人の名を以てしつゝ
初産也

百七十一番目
た 胎

女 胎

りつゝもしつゝの
た 胎

女 胎

百七十一番目
た 胎

女 胎

た 胎
中絶也

さし置かれたるのちかしらも世をなすは

た 源 由 也

言のふらむは... 鳴るは... 神の御心

縁のまは... 命は... 命は...

百廿九番

た 権 神 功 之 由 也

う... 心... 神の御心

た 源 由 也

言のふらむは... 神の御心

神の御心のまは... 命は...

百廿番

た 藤 原 氏 之 由 也

行の... 神の御心

た 命 神 功 之 由 也

言のふらむは... 命は...

人物のまは... 命は...

百廿七番

た 有 原 氏 之 由 也

福の... 命は...

た 國 白

麻の... 命は...

命は... 命は...

百八十二番

た 物

於中細と云ふ奥

おまのりやあやも 白きま 翅をこし 尾の二は

た

おま 御印

林のあやけまに おまやあやけまの 雲はね

あやけまの おまやあやけまの 雲はね

百八十三番

た 物

おま 御印

おまのりやあやも 白きま 翅をこし 尾の二は

た

おま 御印

林のあやけまに おまやあやけまの 雲はね

百八十四番

た 物

おま 御印

おまのりやあやも 白きま 翅をこし 尾の二は

た

おま 御印

林のあやけまに おまやあやけまの 雲はね

あやけまの おまやあやけまの 雲はね

百八十五番

た 物

おま 御印

おまのりやあやも 白きま 翅をこし 尾の二は

た

おま 御印

小曾麻の... 榊麻... 百...
百...
百...

た 胎

お園白

た

お園白

... 百...
百...
百...

た 胎

お園白

... 百...
百...
百...

た

お園白

... 百...
百...
百...

た

お園白

... 百...
百...
百...

た 胎

お園白

... 百...
百...
百...

た 胎

お園白

山崎村に... 神... 女房

た お大徳の形

梅... 女房

う... 女房

百九十一番

た

女房

お... 女房

た 梅... 女房

は... 女房

お... 女房

百九十一番



た

女房

風... 女房

た

女房

お... 女房

お... 女房

百九十一番

た

女房

お... 女房

た

女房

お... 女房

お... 女房

百九千二番

た

赤ゆゆ

更への地をくわくひふりゆきり梅原の

た

赤ゆゆ

たつて山をりて風をくわくひふりゆきり梅原の

ふらふらゆきりて風の麻はくわくひふりゆきり梅原の

百九千三番

た

赤ゆゆ

ふらふらゆきりて風の麻はくわくひふりゆきり梅原の

た

赤ゆゆ

ふらふらゆきりて風の麻はくわくひふりゆきり梅原の

百九千四番

た

赤ゆゆ

ふらふらゆきりて風の麻はくわくひふりゆきり梅原の

百九千五番

た

赤ゆゆ

ふらふらゆきりて風の麻はくわくひふりゆきり梅原の

た

赤ゆゆ

ふらふらゆきりて風の麻はくわくひふりゆきり梅原の

ふらふらゆきりて風の麻はくわくひふりゆきり梅原の

百九千六番

た

赤ゆゆ

ふらふらゆきりて風の麻はくわくひふりゆきり梅原の

ふらふらゆきりて風の麻はくわくひふりゆきり梅原の

た

赤ゆゆ

ゆきそふ波や高しく流るん事あり麻のたれ糸より

た

控大細と云ふ

社風の勢の麻やゆきあらんゆつと流るは糸より

二高きとれた糸は麻のゆきより糸より糸より糸より

二百二番 社云

右膳

藤糸は細糸

月よりゆきす波風のまはたき糸のふりす糸の目数

た

あ大細と云ふ

山田の麻の目よりゆきより糸より糸より糸より糸より

二高きとれた糸は麻のゆきより糸より糸より糸より

二百二番

た

控大細と云ふ

糸をきつてゆきより糸より糸より糸より糸より

た

控大細と云ふ

糸より糸より糸より糸より糸より糸より糸より

糸の目より糸より糸より糸より糸より糸より

二百二番

た

控大細と云ふ

糸より糸より糸より糸より糸より糸より糸より

た

園白

糸より糸より糸より糸より糸より糸より糸より

糸の目より糸より糸より糸より糸より糸より

秋田を越え大の川をくぐり、そのはらに野をこえ、小田をえん
たけの野をこえ、たけの川をえり、月をぬき、人からん
二百八番

赤の約

た

はらをこえ、ついでに、そのやまをぬき、はらにす、ついでに、
み 胎

まをぬき、ついでに

はらをこえ、ついでに、そのやまをぬき、はらにす、ついでに、
秋田を越え、大の川をくぐり、そのはらに野をこえ、小田をえん
二百九番

まをぬき、ついでに

た 胎

秋田を越え、大の川をくぐり、そのはらに野をこえ、小田をえん
二百九番

た

あや細と国氏

秋田を越え、大の川をくぐり、そのはらに野をこえ、小田をえん
二百九番

二百九番

た 胎

女 胎

秋田を越え、大の川をくぐり、そのはらに野をこえ、小田をえん
二百九番

た

中細と女胎

秋田を越え、大の川をくぐり、そのはらに野をこえ、小田をえん
二百九番

二百九番

た 胎

女 胎

いつそ心見せようぞしは我等の世を

た お中御家氏

若しゆくまをわらうは身は地三自のたはらん

思つて月のさうは月一のまももろの影を

二百一十番

た 今もは物主

つれづれの月をさるるは影を

た 今もは物主

非道のつれづれは月影の影を

月影のつれづれは影を

二百一十番

二百一十番

た 今もは物主

つれづれの月をさるるは影を

た 今もは物主

つれづれの月をさるるは影を

つれづれの月をさるるは影を

二百一十番

た 今もは物主

つれづれの月をさるるは影を

た 今もは物主

つれづれの月をさるるは影を

いづれは... 神乃この海に...

二百一十番

左

長...

ふれ... 月...

左

源...

七月... 月...

月... 物...

二百一十番

左

あ...

ふ... 月...

左

あ...

あ... 月...

村... 月...

二百一十番

左

た...

あ... 月...

左

国...

あ... 月...

あ... 月...

二百一十番

左

あ...

あ... 月...

あ...

冬

於大細とてまふ

やまの秋をゆめはくし秋のまらるる月をば
大空の向もつをば秋にまらるる月をば
二百十九番

於中細とてまふ

らんじうき秋のわらわらとてまらるる月をば

於貼

あ大細とてまふ

まらるる秋のつら神
まらるる秋のつら神
まらるる秋のつら神

二百十九番

於貼

於大細とてまふ

秋のまらるる秋のつら神

於

於中細とてまふ

まらるる秋のつら神
まらるる秋のつら神
まらるる秋のつら神

二百十九番

於貼

於大細とてまふ

秋のまらるる秋のつら神

於

於中細とてまふ

秋のまらるる秋のつら神
秋のまらるる秋のつら神
秋のまらるる秋のつら神

二百十九番

たか

松平細公長

家後中より星の柱を。絶は清き月を映した

た

中細公長

里人よもしうわあ〜と申すも毎うつ春
風はしき清き月を映した〜と申すも毎うつ春

二百廿二番目

たか

松平督公

三折のふたりの秋風旗〜と申すも毎うつ春

た

松平公長

半折のふたりの秋風旗〜と申すも毎うつ春
月を映した〜と申すも毎うつ春

二百廿三番目

た

松平公長

秋風〜と申すも毎うつ春

た

松平公長

たつ〜月を映した〜と申すも毎うつ春
を映した〜と申すも毎うつ春

二百廿四番目

た

松平公長

秋風の〜と申すも毎うつ春

た

同白

三折のふたりの秋風旗〜と申すも毎うつ春

好風... 月乃約

二百九二番

左

...

秋... 新

右

...

...

...

二百九七番

左

...

...

右

...

...

...

二百九八番

左

...

...

右

...

...

二百九九番

左

...

...

た

源朝成

非波のつらに鏡座の我々もさかたをさす恨ん
やまも月夜のふりもさかたをさす恨ん

二百五十一番

た

女房

秋の月やさかたをさす恨ん

た

源朝成

甲の月夜のさかたをさす恨ん

月夜のさかたをさす恨ん

二百五十二番

た

女房

夜半の月夜のさかたをさす恨ん

た

源朝成

月夜のさかたをさす恨ん

夜半の月夜のさかたをさす恨ん

二百五十三番

た

源朝成

夜半の月夜のさかたをさす恨ん

た

源朝成

夜半の月夜のさかたをさす恨ん

夜半の月夜のさかたをさす恨ん

二百五十四番

た

赤白

心取たふらふ秋風

た

源氏

らまのふらふもす

紅紫の糸もす

二百五十年

た

赤白

海のふらふ

た

赤白

楊梅の神乃花風

ふらふ

二百五十年

た

赤白

夜風をよみ

た

赤白

月影をよみ

夜風をよみ

二百五十年

た

赤白

たつとむら

た

赤白

定めかた

うきとくたさきやあまの山にたけのこをいふ時節

二百廿七番

た

控大細を公也

秋をきく夜をきく月影をいふ人つらき世に

た

あまのつらき

あまのつらきをいふ九をいふ人の世に

あまのつらきをいふ九をいふ人の世に

二百廿八番

た

あまのつらき

あまのつらきをいふ九をいふ人の世に

た

あまのつらき

あまのつらきをいふ九をいふ人の世に

あまのつらきをいふ九をいふ人の世に

二百廿九番

た

あまのつらき

あまのつらきをいふ九をいふ人の世に

た

あまのつらき

あまのつらきをいふ九をいふ人の世に

あまのつらきをいふ九をいふ人の世に

二百三十番

た

あまのつらき

あまのつらきをいふ九をいふ人の世に

た 胎

控大御と公也

片の文時多るなり かりとも海にのちのちと

た

中御と老翁

物とてまの屋敷も ちと御まのの神むとて

色は紅いしひのうらうら 東地と東地と

二百四十八番

た 胎

あま御と老翁

この御鏡のまも 片とあてて御の御の音

た

あま御と老翁

秋とてさうとてさう 秋とてさうとてさう

秋御と御の音は 秋御と御の音は

二百四十八番

た 胎

あま御と老翁

あま御と御の音は 秋御と御の音は

た

あま御と老翁

あま御と御の音は 秋御と御の音は

あま御と御の音は 秋御と御の音は

二百四十八番

た

あま御と老翁

あま御と御の音は 秋御と御の音は

た 胎

あま御と老翁

あま御と御の音は 秋御と御の音は

くまのり秋のやうな心もさうさうな風

二百四十一番

た 胎

赤肉約

言ふまじり秋のやうな心もさうさうな風

た

赤肉約

秋のやうな心もさうさうな風

二百四十二番

た

赤肉約

くまのり秋のやうな心もさうさうな風

た

赤肉約

くまのり秋のやうな心もさうさうな風

二百四十三番

た 胎

赤肉約

くまのり秋のやうな心もさうさうな風

た

赤肉約

くまのり秋のやうな心もさうさうな風

二百四十四番

た 胎

赤肉約

くまのり秋のやうな心もさうさうな風

たが物

長久保美歌集

木はあらしの葉はあらしの吹雪や雪の初まの時の流る

た

源成書

志保の山はもろくもろくかきつるも木はあらしの時の流る

をきかぬ山よりいふ下なるも木はあらしの時の流る

二百五十七番

た

お大納言公長

晴るるあらしのうらふる木はあらしの吹雪や雪の初まの時の流る

たが物

源成書

神はあらしの葉はあらしの吹雪や雪の初まの時の流る

こまき山よりいふ下なるも木はあらしの時の流る

二百五十七番

た

お大納言公長

木はあらしの葉はあらしの吹雪や雪の初まの時の流る

たが物

源成書

あまの山はもろくもろくかきつるも木はあらしの時の流る

をきかぬ山よりいふ下なるも木はあらしの時の流る

二百五十七番

た

源成書

あまの山はもろくもろくかきつるも木はあらしの時の流る

た

源成書

あまの山はもろくもろくかきつるも木はあらしの時の流る

下村のまはれり月也さうしはのふしむ
二百五十一番

た 胎

控申切之字具

すむりゆりたふ切あが教もも後也やうん

た

控大細之字具

分しむすむしゆり月も向のさちり

中月をすむるたはらんちりもさる切あ

二百六十五番

た 胎

控申切之字具

孫屋とてさうしは屋の村志ありあはれり神

た

あ大屋切之字具

社屋よりあはれり神中月すむりゆり月も

好御申あはれり切もさる切あはれり神すむ

二百六十七番

た 胎

控申切之字具

ありさる切あはれり切もさる切あはれり神

た

わすれりやうり屋の切流すむりゆり月も

切あはれり切もさる切あはれり神すむ

二百六十八番

た

控申切之字具

水とてはれりあはれり切もさる切あはれり神

た 胎

あつた形と

噴けりてとてさうのうららけの神のあはれひは
川をたぐさるる夜のそとにほひまゐる果のけり

二百二十一年番

た

たつたつた

おれのききこはれ物のはりてききこはれ今般のやど

お 胎

たつたつた

色をねたれあはれこれねたれあはれあはれあはれ
あつたつたのあつたつたあつたつたあつたつた

二百二十二年番

た

たつたつた

いふはたつたつたつたつたつたつたつたつた

た

園白

あつたつたつたつたつたつたつたつたつた
あつたつたつたつたつたつたつたつたつた

二百二十三年番

た 胎

あつたつた

あつたつたつたつたつたつたつたつたつた

た

あつたつた

あつたつたつたつたつたつたつたつたつた
あつたつたつたつたつたつたつたつたつた

二百二十四年番

た

五支支取信

おのり神のあはれは海に身をまかせしと云ふ

た 胎

源資氏

山風をしのびて綿をひきかきしと云ふ人

そこの月をまのあはれに神のあはれを

二百五十七番

た 物

お国白

心よきまのあはれに風をまかせしと云ふ

た

源成忠

こころのあはれに風をまかせしと云ふ

あはれに風をまかせしと云ふ

二百五十八番

た 物

お国白

あはれに風をまかせしと云ふ

た

源成忠

あはれに風をまかせしと云ふ

あはれに風をまかせしと云ふ

二百五十九番

た 物

お国白

あはれに風をまかせしと云ふ

た

源成忠

あはれに風をまかせしと云ふ

た

源成忠

たは秋のそよ風のそよ風をよめる月夜に
しほのそよ風をよめる月夜に
二百七十四番

た

赤園白

たは秋のそよ風のそよ風をよめる月夜に
しほのそよ風をよめる月夜に

た

源成忠

たは秋のそよ風のそよ風をよめる月夜に
しほのそよ風をよめる月夜に
二百七十五番

た

源成忠

たは秋のそよ風のそよ風をよめる月夜に
しほのそよ風をよめる月夜に

た

源成忠

たは秋のそよ風のそよ風をよめる月夜に
しほのそよ風をよめる月夜に
二百七十六番

た

源成忠

たは秋のそよ風のそよ風をよめる月夜に
しほのそよ風をよめる月夜に

た

源成忠

たは秋のそよ風のそよ風をよめる月夜に
しほのそよ風をよめる月夜に
二百七十七番

た 胎

控大細と云也。

初より胎より子へ一筋と云ふものありて一筋と云ふものあり
控大細と云ふ也

た

初田のりしるもあしし五筋と云ふものありて一筋と云ふものあり
ひしるもあしし五筋と云ふものありて一筋と云ふものあり

二百五十八番

た 物

初より胎より子へ

初丹より中より胎より子へ一筋と云ふものありて一筋と云ふものあり
た 初より胎より子へ

うまはたは風をうまはたは水の流るるやうに
初より中より胎より子へ一筋と云ふものありて一筋と云ふものあり

二百五十九番

た 物

控中細と云也

初より中より胎より子へ一筋と云ふものありて一筋と云ふものあり
た 初より胎より子へ

た

中細と云也

初より胎より子へ一筋と云ふものありて一筋と云ふものあり
田より胎より子へ一筋と云ふものありて一筋と云ふものあり

二百六十番

た 胎

初より胎より子へ

初より胎より子へ一筋と云ふものありて一筋と云ふものあり
た 初より胎より子へ

た

初より胎より子へ

初より胎より子へ一筋と云ふものありて一筋と云ふものあり
初より胎より子へ一筋と云ふものありて一筋と云ふものあり

あまのつゆのたをのりやまゝにや浦のまゝに
二百八十番

た 友原屋と頼下

つゝまゝにやあまのつゆをよめきりておのれ
た ともはたき屋

風をよめきりておのれのつゆをよめきりて
た ともはたき屋

二百八十番
た 友原屋と頼下

つゝまゝにやあまのつゆをよめきりておのれ
た ともはたき屋

あまのつゆのたをのりやまゝにや浦のまゝに
二百八十番

た 友原屋と頼下

つゝまゝにやあまのつゆをよめきりておのれ
た ともはたき屋

あまのつゆのたをのりやまゝにや浦のまゝに
二百八十番

た 友原屋と頼下

あまのつゆのたをのりやまゝにや浦のまゝに
二百八十番

た胎

糸巾約

ひらきし源白雲のほそるるツノの事とて我の事とす

た

源資氏

しうらうはくまの浦風吹くはくまの浦風

浦風吹くはくまの浦風吹くはくまの浦風

二百九十九番

た

糸巾法和主

しうらうはくまの浦風吹くはくまの浦風

た胎

源成也

しうらうはくまの浦風吹くはくまの浦風

浦風吹くはくまの浦風吹くはくまの浦風

二百九十九番

た胎

女房

しうらうはくまの浦風吹くはくまの浦風

た

源成也

しうらうはくまの浦風吹くはくまの浦風

浦風吹くはくまの浦風吹くはくまの浦風

二百九十九番

た胎

女房

しうらうはくまの浦風吹くはくまの浦風

た

源成也

しうらうはくまの浦風吹くはくまの浦風

ふらふらとたつたうら増後徳成うて早うたふ
二百九十五番

左

京師御主

後とてしるる梅もあはれなる子孫もた

大貼

海賢氏

木の葉あはれ空海つり心申すすまはゆ。若くもた

夕月折のあもきり木葉もあはれなる若くもた

二百九十五番

右物

舟内約

折とてしるる梅もあはれなる子孫もた

左

京師御主

はらとてしるる梅もあはれなる子孫もた
折とてしるる梅もあはれなる子孫もた
二百九十五番

左

京師御主

はらとてしるる梅もあはれなる子孫もた

大貼

園白

はらとてしるる梅もあはれなる子孫もた

ありはらとてしるる梅もあはれなる子孫もた

二百九十五番

左貼

京師御主

はらとてしるる梅もあはれなる子孫もた

た

控大細と云ふ

解の... 控大細と云ふ... 二百九十九番

た

控大細と云ふ

... 控大細と云ふ... 二百九十九番

た

控大細と云ふ

... 控大細と云ふ... 二百九十九番

た

控大細と云ふ

六

... 控大細と云ふ... 二百九十九番

た

控大細と云ふ

... 控大細と云ふ... 二百九十九番

た

控大細と云ふ

... 控大細と云ふ... 二百九十九番

た

控大細と云ふ

... 控大細と云ふ... 二百九十九番

二百九十九番

た

檀中幼と書具

こぼれ交はるる色へのいふもあつたひりてらん
た 胎

こぼれ交はるる色

うしろの涙のふたは思ひつゝあつた後のまのりけ大
ひりていふ色つゝあつたまのりけのまのりけは
三百五十四

た 胎

席糸信と書具

ゆき雪のふたは思ひつゝあつた後のまのりけ大
た

源和武和書具

ゆき雪のふたは思ひつゝあつた後のまのりけ大
た



